

還暦を迎えた7期生の皆さんへ

今年度、還暦を迎えられた第7期卒業生【昭和59(1984)年3月卒業】の皆さんに向けて、当時の担任団の先生方からメッセージをいただきました。

先生方には同窓会より連絡を取らせていただき、還暦になった皆さんに向けて、字数も内容も特に決めず、自由にメッセージを書いていただくよう、お願いをしました

皆さんそれぞれの高校時代、そして当時の先生方を思い出しながら、どうぞご覧ください。

下の写真は、7期の皆さんが卒業の際に「卒業記念品」として学校に贈った、中庭の北棟側植栽です。残念ながら、植栽自体はほとんど残っていませんが、石碑はしっかり7期生の寄贈であることを記しています。ちなみに現在、この後ろの窓の教室はトレーニングルームになっています。



3年 2組 高島 幸治 先生

7期生の皆さんお久しぶりです。お元気ですか。同窓会の会長さんから連絡をいただき、皆さんが今年度、還暦を迎えられることを知りました。還暦に至るまでの皆さんの人生は、決して平坦な道のりではなかったかと思います。どうぞ「よく頑張った」と自分を褒めてあげてください。それにしても卒業した時に18歳の若者だった皆さんが還暦を迎え、33歳だった私はこの3月に75歳の後期高齢者。お互い歳を取りましたね。

皆さんが入学した頃の金井高校は、「体験学習」に熱心に取り組んでいた時期で、1年次の稲作体験学習(全員)、夏休みの尾瀬自然教室(希望者)、2年時の修学旅行における体験学習(草鞋づくり、紙漉き、溪流釣りなど)などが、強く印象に残っています。名古屋(松本)から高山・白川郷・五箇山・金沢を巡るコースは、修学旅行としてはちょっと珍しいコースでしたが、現在ではヨーロッパからの外国人観光客に「サムライ・コース」として人気のコースとなっているそうです。数年前に高山・白川郷を訪ねた時も、外国人が溢れ返っていました。

私は皆さんが卒業した後四校を渡り歩き、2011年3月に定年退職しました。その後5年間の再任用(フルタイム)を経て、現在は月・水(高校非常勤)、火・木(幼稚園での保育補助)、週17時間の仕事をしています。そして週末(金・土・日)はテニス三昧です。年齢も年齢ですので仕事はそろそろと思いつつも、辞めることで高齢者特有の症状が一気に進行するのではとの不安があり、なかなか決断できないでいます。

健康面では9年前の健診で「胃がん」(ステージⅠ)が見つかり、胃の1/2を切除しました。幸いなことに早期癌でしたので、現在は元気に暮らしています。これを機に自宅での飲酒は止めました。月に1～2回、友人たちと外で飲む程度です。そのお陰かすっかり贅肉がそぎ落とされ、20代の頃の体重に戻りました。

第二の人生を歩み始める7期生の皆さんに、フレイル(加齢に伴う心身の活力の低下)を防ぐための※合言葉を贈りたいと思います。どうぞ楽しく充実した日々をお過ごしください。

※「さあ にぎやか(に) いただく」(まごころ通信)

さかな あぶら にく ぎゅうにゅう やさい かいそう
(に) いも たまご だいち くだもの

3年 3組 岡本(館岡) 清弘 先生

「1983年10月、修学旅行最終日の某重大事件」

金井高校7期生のみなさん、還暦おめでとうございます。

久しぶりに開いた卒業アルバム——高島先生に金井をめぐる通学路のあちこちを教わりながらアルバム作りの楽しさを味わい、その後担任するたびに卒アル制作に関わるきっかけとなった記念すべき一冊です——そこには修学旅行の旅程を描いたカラフルなイラストが載っています。それを眺めるうちに思い出し、日にちを確認したできごとがあります。1983年10月5日深夜、高山の宿での「某重大事件」です。

各部屋の最終点呼に続く教員団の最後の打ち合わせも済んで、クラス員の「旅のしおり」のチェック終えて一息つきました——最後の夜です。こちらの気分も高揚していたのでしょう。「しおり」を返しながらかもう一回り、と各部屋に足を運んだその結果……盛りあがり過ぎた面々を発見してしまったのでした(しおり返却は翌朝で良かったのに！)。

——翌日の明治村は駐車場のバスの中で、顛末を正直に告白したおのおの方とたっぴりと「語らう」時間を、過ごす仕儀と相成りました。

その後、同様のコースで修学旅行を引率する機会も、個人的に近くを旅する折もあったのに、なぜか明治村訪問は実現しないまま、現在に至ります。

無念の明治村、というわけですが、こうなってくると、未完のままの方が良いように思われてきます。何もかも充足した金甌無欠(きんおうむけつ)の人生よりも、実現していない夢を残して置く方が、その分だけ豊かな感じがします。

今年イチロー選手がメジャーリーグの殿堂入りに選ばれた時に、満票でなかったことについて「1票足りないのはすごく良かったと思います。」とユーモアを込めてコメントしたことが話題になりました。さらに「不完全であるというのはいいなって。生きていく上で不完全だから進もうとするわけで。」とも語っていました。

では「足りない」ことがいくつもあったら？——やるべきことが決してなくならないという意味で、さらにさらに喜ばしい境涯だと言えます。

さて「未完の明治村」ですが、いつか行けるでしょうか？それは分かりません。

あの日、不運にして明治村に入れなかった人たちも、その未完を抱えて還暦を迎えられたのだとしたら、同じ楽しみを残して置いた同志です。あの日予定通りに見学できた人とはひと味違った60年を過ごしてることが出来たはず。あの日(1983年の10月6日、ということになります)、バスの中で一緒の時間を過ごした仲間がいたことこそは、皆さんにとって、そして僕にとって「黄金のとき」だった、と思います。

3年 4組 佐々木 悦子 先生

2025年は昭和100年とのこと。昭和40年に生まれた金井7期生の皆さんはめでたく60歳を迎えました。還暦、おめでとうございます。

夏に、バスケット部の7期生の皆さんが「還暦を祝う会」を企画して仲手川先生と私に声をかけて下さり、久しぶりに楽しくお会いすることができました。その時の印象は、皆さんまだまだ若くて、50歳代前半の雰囲気でした。高校を卒業して42年も経過しているけれど、性格や雰囲気は昔のままで、高校時代とそんなに変わっていませんでした。しかし、この42年間には、いいことも悪いことも含めて、言葉に言い尽くせない様な大変な出来事が多々あったと拝察します。人生や社会の荒波に揉まれながらもそれを乗り越えて今に至ったと思います。そんな皆さんに心から「頑張ったね」と声をかけたいと思いました。

「60歳代はまだまだ元気でやりたいことができますよ！」

「大人になった分、今までよりも人生を深く味わえますよ！」

「周りの人と、健康を大切にしてくださいね！」

(なお、私の近況ですが、77歳になりましたが、中学校や大学で非常勤講師として先生をやっています。元気です。)

皆さん、還暦、おめでとうございます。

佐々木悦子

3年 7組 三浦(藤田) 智子 先生

そうですか、還暦ですか、あのピチピチ皆さんが。人生色々あったでしょうが、ここまで到達したら、まずはおめでとうのメダルを差し上げたいです。

と言う私も、あの時は教員生活で初めての担任でしたので、そんなに歳は変わりません。そして未熟な教員でごめんなさいがいっぱいです。まだお付き合いのある教え子の方達には、「大人だと思っていたけど、あの時の先生は若かったのですねー」と良く言われます。そう若かったです。

今回、締切間近に軽いコメントを送ろうと思っていたのですが、先に送られた他の先生方の文を見せていただいて、動揺。諸先輩の文が長くて、記憶力の良いこと！それを見て少し蘇って来たことを書いてみます。

修学旅行の分宿。女子しか居ない民宿に夜、男子が入って来ていて、関谷先生の泊まる宿まで反省する男子

達を連れて？真っ暗な石畳の坂道を歩いたかな？玄関は開かず、何処から出て来たの？と問いただし。帰りは1人で真っ暗闇の夜中の馬籠。

ちょうど先程、「今は外国人が行く奈良井宿に、日本人はあまり行ってないけど知ってる？」と人に聞かれ、その場で行ったことあるのは私だけでした。地元の不幸か何かで、食堂が全部閉まっていてお腹を空かせた所ですよ？記憶違ってます？でも素敵なルートの修学旅行でしたね。

稲作も大変だけど、良い経験しましたよね。地域の方にも感謝です。田植えも稲刈りも、キャンプの火起こしも、みんなに普通の顔して教えられる様に、私は事前に練習しました。二年生の時の文化祭、私のクラスはファッションショー。私、アラレちゃんやりました。みんなに厳しく指導された通り、キーン！って思い切り良くステージに登場したら、保護者の方々が驚いた表情で引いていたのを覚えています。隣のクラスは源氏物語人形劇やりました？金井のみんなはクリエイティブでしたよね。文化祭中に台風と洪水なんか来たのはあの時？

遠足で鎌倉の山通って海まで歩くのもありましたよね？私は山の中でスタンプ押す係で、1人で不安。何処かの班がワイワイ来る度、嬉しかった。合唱祭とか、ダンス、剣道とか、大会やイベントの多い生き生きとした楽しい学校でしたね。力を合わせて何かを創り、喧嘩したり仲良くなったり。そんな経験が皆さんの人生の力になっていたら嬉しいです。私は、金井高校の経験で成長させてもらいました。

その金井に、とうとう統廃合の波が来たと知ると寂しいですね。卒業生の皆さんの寂しさはもっとでしょう。でも、時代は変わるし、あの輝きや思い出はずっと皆さんの金井高校ですから、心の中のその存在を大切にしてください。

私は、英語、スペイン語、日本語支援と、教える仕事は続けています。教え子と同僚になったり、教え子のお子さんに会える縁もあったりします。歳取って姿変わっていますが、何処かで見かけたら声をかけてください。ピチピチ高校生から還暦になった皆さんの姿こそ私にわからないかな。

私の最初の担任学年の可愛い生徒の皆さん、どうぞ可能な限り、元気で、楽しいこと見つけて、人生を更に進んで行ってください。これからの人生で今日が一番若い日！声援を送ります。

3年 8組 島巡 陽一 先生

森同窓会長（4期）から、7期生が還暦を迎えた（No kidding!）ので、近況報告や激励等をとの依頼がありました。県立高校初任校の金井で初めて担任となった7期生。百校計画で生まれた県立高校の特色だった数多の若手教員たちが、各学年五百名を超える生徒たちと一緒にやって行く様々な活動は、「怒涛の学校行事」とも言えるものでした。田植えで名を馳せ、本郷台から江の島まで歩いた強歩遠足、善行での陸上競技大会、夏は尾瀬自然教室、冬のスキー教室、そして校門の2階教室まで届いた名物大アーチが象徴する金井祭、etc。あれから半世紀近くの時が流れましたが、あの教員たちとあの生徒たちの熱気あふれる交わりを、金井高校を、7期生を忘れるはずはありません。

金井への思い込みが強い理由が、もうひとつあります。私の教員としての経歴は少々変わっており、出だしは近くにある小学校、次は東京都中野区の中学校、そして県立金井高校に勤務し始めましたが、5期生にその小学校で3年間担任をした生徒たちが複数名いて、今度は英語を教えたということがあったのです。まさに奇遇ですね。

金井高校に住み着くこと9年、その後は2つの高校勤務を経て、県教委へ。その後は管理職として3校へ9年間勤務し、なんと内8年はすべて再編統合がついてまわりました。そしてあろうことか、創立50周年を迎えたわが金井高校が再編統合されるとは。

ところで、先生方も多士済々でしたね。1学年12クラスもあったので、名前しか知らない先生もいるでしょうが、思い出すままに、解説？してみましょう。漫画家紡木たく（4期？）の「瞬きもせず」に登場した深じい（深田先生）。喫煙バスター原木先生。校長面接に来て初めて会った悦ちゃん（きりっとして授業中、頼もしい先輩と思ったが、なんと同じ歳だった佐々木先生）。フルートを独学でものにし、金井の応援歌を作曲した奇才牧野先生。板書の字があまりにもきれいなので、黒板係の女子生徒が消せなかったとの伝説がある国分先生。結婚を機に10キロ以上の減量に成功し、今もそれを保っているドラえもん（片野先生）。県教委時代（高校人事企画）、一緒に机を並べて真夜中まで仕事をした、春さん（佐藤先生）、八木先生、もっちゃん（望月先生）。いざとなると武闘派になり、生徒と取っ組み合いをした繁さん（繁原先生）。初の金井の卒業生の着任（松井先生）。週に2回は大船へ出かけた飲み仲間たち（緑川先生、井上先生、高島先生、小磯先生、平形先生、榎本（山崎）先生、遊佐先生など）。バスケの熱血指導者仲さん（仲手川先生）。愛称が「カッキー」だった柿崎先生。面倒な仕事も率先垂範の館岡先生。「ちびまる子ちゃん」が国民的アニメとなると予言していた松本和子先生。予定字数の関係で、ここまで。

7期の皆さん、人生はこれからが面白い。面白くなるように生きなくては。これからの人生で、また新たな自分に出会えますように！そして、何よりもお元気で！

閉校で歴史伝統途絶えても残る回文「金井は田舎」

3年 9組 関谷 潤一 先生

7期生の皆さん、還暦誠におめでとうございます！

皆さんが還暦を迎えたとお聞きし、正直目を丸くしてビックリしました！

もうそんなに時間が経過していたのか！

私の記憶にある皆さんは、16・17・18歳の高校生の姿のままです。その皆さんが60歳のオッサン・オバサンになっているとは！

もし道ですれ違っても私には絶対に皆さんだとは分からないでしょう。

皆さんは今や立派な社会人としてまた家庭人として、社会の中核をしっかり支えていることでしょうね。

私もお陰様で高校教員として定年を迎え、その後は再任用で5年間、そのあと1年間を非常勤講師として高校で教えてきました。それからは全く無職の年金生活者となり、毎日趣味中心の生活を送っていて、つい先日69歳になりました。

思えば、皆さんと接していたころの私は、教員としても人間としても未熟で、申し訳ないことばかりだったと思います。しかし、今更反省しても過ぎ去った時代は戻ってきません。せめてこれからの人生のうえで少しでも人間として成長していければと思っています。

皆さんもそろそろ高齢期に入っていきます。高齢者の先輩として皆さんにお伝えしたいのは、人間、「健康が第一だ」ということです。

いくらお金があっても（少しはないと困りますが）健康でなければ無用の長物になります。日頃の食生活や仕事・趣味などにおいて、健康に悪いことをいかに避けるか、が大事です。高齢期に入ると、放っておいても老化により体のあちこちに病気が出てきます。これは生物としての自然現象なので防ぐことは出来ません。せめて病気になるのを少しでも遅らせる、なるべく重い症状にならないように気を付けていく。これが大切です。

皆さんどうか、ご自分の健康に十分気を付けてください。

私は若いころから旅行が好きだったので、ここ数年はあちこちに旅行に行っています。毎月1回か2回出かけしています。

何しろ「毎日が日曜日」ですので、いつでも自由に出かけられます。円安の影響で海外旅行が高騰してしまったので、国内旅行専門です。

日本史が専門だったこともあり、旅行先はどうしても日本史と関係がある場所に興味を惹かれます。昨年は、NHK朝ドラ「ばけばけ」の舞台である松江のほか、「後漢書東夷伝」に出てくる奴国王に与えられたという金印の出土地の福岡県志賀島、島原の乱で一揆勢が壊滅させられた原城跡など、あまり観光客が訪れない辺鄙な場所も行って来ました。ああここがあの舞台になった場所か、と現地に実際に立ってみると、海や山や土地のたたずまいから何かしら感じ取れるものがあって感慨深いです。

旅行に行くにも健康でないと行けません。まだ今は何とか歩くことに支障がないので、あと数年は歴史上の聖地巡礼的な旅を続けようと思っています。

7期生の皆さん、どうか毎日をお元気で過ごしてください。そして無事に古希をお迎えください。その時にもし私もまだ生きていれば、またお祝いのメッセージを送らせていただきます。

3年 12組 平本 徹 先生

7期生還暦祝いメッセージ 当時担任 平本 徹

金井高校同窓会長 森様より、7期生が還暦を迎えた年なので、メッセージを一言お願いしたいと連絡があり、懐かしいなあ、とお受けした次第です。7期生のクラス担任を務めました 平本 徹（教科保体）です。

金井高校7期生の皆様、還暦を迎えられおめでとうございます。皆さんが高校を卒業して42年も時は進んでしまったのですね。懐かしの青春時代に多少はお付き合いでき、共に過ごさせてもらい、面白かったなあ、いやありがとう、ですね。

当時の金井高校を振り返ってみます。

私は金井高校勤務が大学卒業した後の新採用で、2度目の担任（初担任は3期生）として7期生を迎えました。年齢も28～9歳で、バリバリの青春先生をやっていた時代でした。正直言いますと教科指導や学級指導より陸上競技部の顧問の仕事が楽しくて仕方なく、部員の思い出作りのお手伝いできたかな、と自負しています。6、7、8期生が揃った時期は凄い部員数でした。1学年12クラスの大規模高校とは言え、5月頃に50～60人の陸上部員がグラウンドを走り回る姿は圧巻でした。金井高校の部活動は文化系 運動系の部活全体に物凄いパワーを感じました。

教員も生徒も新設高校の勢いに溢れ、私のその後の勤務校と比較するのも何ですが、金井高校は本当に熱かったと思います。学校行事はこれでもか、と言うほど山盛りでんこ盛りで行事が設定されていましたよね。新入生歓迎会に始まり、遠足、授業の一環でもあった田植え体験、陸上競技大会、学期末ごとの球技大会、夏・春の部活動校内合宿、尾瀬やキャンプの野外体験活動、文化祭（金井祭）、合唱祭（音楽祭）、マラソン大会や

剣道大会もあった、、スキー教室も。いつ勉強していたか？と思うほど皆さんの高校生活は多忙であったと思います。無理やりもあったがやりきったぜ。多くの金井卒業生は、高校生活は面白かったな、と感じていると思います。

担任として7期生と過ごした3年間、このメッセージを書いたり、当時のアルバムを見たりして、どんどん記憶が、思い出が甦って来ました。担任として思い出に残っている事は、2年生の時の担任をしたクラスが、色々苦勞してたけれど、合唱祭で大地讃頌を歌い切り、見事優勝を飾った事でした。ステージの袖で お前ら凄い！と感涙したことです。72歳になった今でも 大地を愛せよ～と口ずさむ時があります。（突然ですがひょっとして皆さんの干支は巳年が多い？私も巳年） 更に個人的には修学旅行の引率で、富山県？の相倉の合掌造りの民泊の1泊が色々なことがあって、よく思い出されます。（何か？って私の胸の内で勘弁）4泊5日は長かった。

もう40数年も経ってしまったのですね。60歳を越えたとは言え まだまだこれからです。70歳まで働けよ、と言われそうな世の中です。自己管理が重要なのでしょう。私は60歳前後で大病を患い、何とか復帰して、病院通いは続きますが、今は陸上競技団体の仕事や町内会の会計や出身高校の陸上部の同窓会長とか、趣味となったテニスや家庭菜園などで、結構貧乏暇なし生活を送っています。

7期生の皆様も 還暦もちょっとした通過点と思い、どうぞこれからも健康第一で有意義な生活を過ごして行かれることを心よりお祈りいたします。お互いに、ですね。